

(様式1)

大 学 名	早稲田大学	学 問 分 野	人文科学
専 攻 等 名	演劇博物館・文学研究科芸術学(演劇映像)専攻		
拠点のプログラム名称	演劇の総合的研究と演劇学の確立		
拠点リーダー氏名	伊藤 洋	所属部局・職	演劇博物館・館長
プログラムの概要	日本の古典演劇をはじめとして、世界各国の演劇を総合的に研究し、今まで学問分野としての基盤が脆弱であった演劇学を、独立学として創設しようとするものである。演劇諸分野の多様性を容認しつつも共通の研究評価基準を模索し、各国ごとに個別であった演劇研究を、世界的評価の可能な新しい学問体系として確立したい。		
拠点形成の目的・必要性	従来我が国では、演劇学は独立した学問分野と認められていなかった。これは理論研究と実技研究とが互いに相容れない研究の両面を代表していることが、その原因と考えられる。本拠点は、演劇博物館と文学研究科芸術学(演劇映像)専攻とを中核として、「演劇研究センター」を設立し、そこに学内外の世界的権威を結集することにより、演劇の理論的研究と実技に関わる研究とを統合した、新しい演劇学の概念を打ち立てることを目的とする。すなわち演劇学を独自の学問分野として確立し、あわせて文学や芸術諸学とも連携した新しい研究のあり方を追究したい。これらの事業を通じて本拠点は、地域的な文化の特異性にしばられて世界的な評価の与えられにくかった人文系諸学において、世界標準となるような、先進的な研究方法と学術評価の基準を打ち立てることになるであろう。		
研究拠点形成実施計画	<p>「演劇研究センター」には下記の四分野を基本コースとして定め、分野ごとに複数の研究プロジェクトを発足させたい。また各分野で高度な進展を認められた研究テーマは、別途科学研究費などの外部資金の導入を前提に、さらに大きく前進させるようにしたい。</p> <p>アーカイブ構築研究。日本をはじめ諸外国の演劇資料、民俗芸能資料を博搜・収集し、データベース構築へと研究を進める。この研究は、他の部門に資料を提供するための基礎学と位置付ける。</p> <p>演劇理論研究。国内・海外の演劇情報を収集し、また海外との学術交流・研究集会の開催、実験的演劇の試演等を通じて、現代における演劇諸分野のあり方を解明し、新しい演劇理論を打ち立てる。</p> <p>古典演劇研究。能・文楽・歌舞伎の作品分析による総合的考察を中心とする。演技要素の単元化、演出資料の体系化、作品本文の校訂を通じて、作品本来の姿を復元することを目指す。可能であれば、実験上演等も念頭に置きたい。</p> <p>芸術文化環境研究。従来ほとんど考察の対象とならなかった演劇と社会との関わりを基本テーマとして、劇場およびそれを取り巻く環境の、理想的なあり方とその運営の基本原則を考える。</p>		
教育実施計画	<p>上記の研究組織に参加する学生は、文学研究科芸術学(演劇映像)専攻博士後期課程の在籍者を中核とする。ただしそれに限定することなく、広く世界に学生を公募する。他大学に留学中の留学生であっても、優秀であれば参加資格を認める。応募者は単年度ごとに研究計画書を提出し、審査を受ける。本拠点の研究は、本属の専攻に対する、一種の大学院副専攻あるいはオープン教育という位置付けとなる。</p> <p>参加した学生は各分野の指導教授の指導下で、任意のプロジェクトに参加し、一年後には論文の形で成果を発表する。有望な研究プロジェクトについてはさらに研究期間を延長し、教員レベルで科学研究費などの申請を行い、より高度な研究に参加することも支援する。このように競争原理の下での自由研究に参画することにより、共同研究の手法を学びつつ、研究者として成長していくことが期待される。</p>		

演劇研究センター イメージ

